

国内研修活動報告書

「暮らし観光から考える大衆に向けない観光の在り方とは ～なぜ大衆に向けない観光が人を呼ぶのか～」

○研修場所

佐賀県嬉野市 旅館大村屋

○研修期間

2026年1月29日～1月31日

○研修参加人数

4名

今回の国内研修は、秋学期のローカルイノベーション論でゲスト講師として来て下さった嬉野温泉・大村屋の代表である北川さんのお話をきっかけに始まった。大衆向けではない観光、地域住民の暮らしを一番に大切にし、それをそのまま観光として作りあげた「暮らし観光」について深く学ぶべく、佐賀県嬉野市に足を運び、嬉野一の老舗旅館であり北川さんが代表を務める、旅館大村屋にお世話になりながら、実際に地域の中に入り、自分たちの肌で学びを得てきた。

一日目は、大村屋に到着した後、さっそく北川さんとともにまちあるきを行った。このまちあるきでは、有名観光地で行うようないわゆるツアーガイドとは全く違い、地域に根ざしたお店を巡り、そこで会う人々と会話をする。そして地域の方々もそれが当然のように、「どこから来たの～？」や、「どこに泊まるの？いつまでいるの？」と温かく声をかけてくださった。「大村屋にお世話になるんです。」と答えると、「ああ、けんたくん(北川さん)のところね！けんたくんならなんでも知ってるから、楽しんで行ってね～！」などと、北川さんが地域の人々から愛され、信頼されている様子も伺えた。そして北川さんも、地域の人を紹介して下さる時に、単に役柄とかではなく、その人の生き立ちや好きな食べ物など、人柄が分かるような紹介をしてくださった。これによって会話が弾み、私は、嬉野温泉に来た一観光客というより、一人の人間として、ずっと嬉野市に馴染んでいくような感覚になった。その日の夜は、まちあるきをする中で出会った、宮下さんが経営する **Tea Salon TSUBAKI** を訪れた。宮下さんは大学時代に難病を患ったことをきっかけに、自分の人生を振り返り、自分のしたいことを模索する中で、今の在り方にいきついたのだという。相手に合わせるようなサービスではなく、自分が本当に素敵だと思うこと、相手に届けたいものを軸としてお店を営む。私は宮下さんのお話をお聞きする中で、この思いは暮らし観光に繋がっているのではないかと感じた。大衆に好まれるようなサービスをするのではなく、自分のしたいことを大切にして、それが好きだと言う人に来てもらう。嬉野市は、このような思い

を持った人が多く集まり、そのような人や思いが、このまちを作っているのだろうと考えた。

二日目は、ティーツーリズム茶輪を体験した。自分が選んだ茶葉が入ったボトルとともに、電動自転車に乗り、嬉野市の茶畑を駆け巡った。どこに行ってもすれ違う住民の方々が、「どこに向かっているの？」と話しかけてくださり、応援の声をかけてくださった。住民の方へのヒアリングを目的としているわけではないのに、ただ自転車で走り回っているだけで嬉野市の温かみをすごく感じる事ができた。その後は、旅館大村屋の従業員の方へヒアリングを行った。旅館大村屋では、従業員の方々にまずまちあるきをしてもらいたいので、従業員として嬉野市に来た人々をまちの一員として歓迎し、嬉野市に住み続けやすいようなサポートをしているようだった。実際に、旅館大村屋では離職率がとても低いらしく、地域住民の方々とたくさん触れ合うことで、お互いがお互いを知り、このまちに住みたいと自然と思える、そんな環境であった。

最終日は、2日間の中でよりお話を聞いてみたいと思った地域住民の方にヒアリングを行った。最初は、日本中の様々なところを旅した中で、嬉野市に移住を決めたご夫婦にお話を伺った。今は、カフェを営んでいるが、後々ゲストハウスを開きたいと、旦那さんは旅館大村屋で勉強がてら働いているそうだ。この夫婦が移住を決めたきっかけは、「また会いたいと思える人がたくさんいた。」ことで、なによりこの地域の温かさに魅力されたのだと言う。また、ここありという名称で地域の人々に親しまれている「心ここに在りき」というカフェのオーナーであるしろうさんにもお話を伺った。しろうさんも、宮下さんのように暮らし観光につながるような思いを持っているそうで、その中のひとつに、SNSでの発信に重きを置かないという点が印象的だった。自然に出会える人を大切にしたいというしろうさんの思いのつまったカフェであった。

この三日間を通して、「暮らし観光」への知見を深めるとともに、私は本当にこのまちが大好きになった。嬉野市には、観光客を効率良く、また、たくさん集めたいと言うのではなく、このまちが好きな人に来てもらいたい、そのような思いがたくさん詰まっていた。また「会いたい」そう思える人々がたくさんいるのが嬉野市であり、そういうまちだからこそ「暮らし観光」が成り立ち、続いていくのだと感じた。